

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500157	事業の開始年月日	平成23年2月1日
		指定年月日	平成23年2月1日
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家 川崎野川南台		
所在地	(216-0001) 神奈川県川崎市宮前区2340-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成24年11月9日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/14/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&IteyosyoCd=1495500157-00&PrefCd=14&VersionCd=022
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方で顔なじみになり言葉を交わせるようになりました。地域の行事への参加、盆踊り、神社のお祭り、音楽会など。また保育園児とのふれ合いもできました。ホームで行った納涼祭では地域の踊りの会の方が来て、浴衣の着付けを手伝ってくださり、ご入居者様と一緒に踊りを踊ってくださいました。このような小さな交流を少しずつ増やし、防災時には地域と互いに協力しあい、力となるような関係づくりを目指していきます。野川南台のご利用者様への支援はその瞬間、その時に寄り添うケアを行うことを大切にし、耳を傾け共感し思いを受け止めるケアの心を持つことを常に目標にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年11月24日	評価機関 評価決定日	平成25年1月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR南武線「武蔵新城」駅よりバスで「野崎」バス停下車し、バス通りから徒歩約10分、晴れた日には富士山も見える眺望の良い高台にあります。周囲には建物が少なく、開放的で終日陽光の差し込む明るい住環境となっています。利用者の散歩コースとなっている近くの公園には大きな桜の木があり、春は満開の花、秋の紅葉など季節の移ろいを楽しむことができます。

<優れている点>

ホームの理念「温もりのある我が家」を目指し、職員一丸となって利用者同士、利用者と職員、職員同士が相互に助け合いながら理念の実現に邁進（まいしん）しています。毎月防災訓練を行い、時には抜き打ちの訓練なども実施し防災意識の啓蒙を図っています。地域の子供110番（駆け込み寺）の施設にもなっています。事務所には毎月サービス目標を掲げ利用者へのサービスの向上に積極的に取り組んでいます。

<工夫点>

玄関に全職員やホームの主治医、看護師、薬剤師、厨房職員など日頃ホームに関係している人のネーム入り顔写真の掲示があり利用者や家族にも喜ばれています。ホームの段ボールの回収が地域のコミュニティーバスの運行費用の一助になる等、地域に貢献しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家 川崎野川南台
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らすわが家として地域交流の機会をふやし、地域の中に根付くことを常に考え、行事を企画しています。	法人とホームの理念は玄関、事務室に掲示し職員は共有しています。ホームの理念は開設時に職員全員で作られています。利用者及び職員同士が相互に助け合い「温もりのあるわが家」を築くことに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが開設して一年半が過ぎ、近隣の方とも顔なじみになり、言葉をかかわっています。近くのスーパー散歩がてら買い物に行くことが増え、触れ合う機会ももてるようになっていきます。近隣の自治会のダンボール回収に協力しています。	ホームの納涼祭には地域の人達の着付けで、利用者はゆかた姿で盆踊りを楽しんでいます。地域の盆踊りに参加したり、近くの保育園の園児とのふれあいの場もあります。町内の回覧で地域の行事案内には積極的に参加し、地域交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野川地区のすこやか運動に参加し、元気度チェックに協力をする。地域の会合への参加が思うようにできていない。地域の方が行事等にて来館されたとき、生活の様子などお話をしています。小学生の体験学習の受け入れをおこなっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告お行い意見やアドバイスをいただいている。地域包括センターの職員の方から防災へのアドバイスや地域の活動を教えていただき、ホームの活動にとりこんでいます。	委員は町内代表、家族、保育園長、地域包括などが参画しています。会議ではホームの活動報告や意見交換をしています。委員より防災ビデオの貸し出し情報を得て運営に生かしたり、利用者が階段を下りる際の、声かけポスターの掲示提案もありました。	会議には現委員のほか地域の交番や消防署、学校、老人会、婦人会などの代表を交替でオブザーバーとして招くなどして、推進会議の、より充実と活性化を図られることも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催のお知らせをおこなっています。子ども110番があることを教えていただき地域との連絡をとっていただいています。	ホームへの入居希望者の困難事例があり行政の支援を受けました。市の感染症の研修会などの参加をしています。行政との連携、交流の場をさらに増していきたいとの意向があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月1回開催、またフロア会議等の時間を使い事例をあげながらカンファレンスを行い、拘束をしないケアに取り組んでいます。	拘束の弊害については研修会や「拘束の手引き」、法人の「身体拘束ゼロを目指して」などの手引きで徹底を図っています。利用者とのコミュニケーションの際の言葉に細心の注意をはらい拘束のない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる様な声掛けがないように声かけやコミュニケーションのとり方などを会議等の機会を使い伝えている。。また自分の生活も安らげるようにしていくことがご利用者様への良いケアにつながる事をつたえています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームで学ぶ機会がなかった。個々に研修に参加している。今後は会議にて伝えたり、講習を受ける機会をつくり職員みんなが制度を理解し支援できるようしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い同意が得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のお知らせをおこなって、会に参加していただける様に努めています。会にてご家族様の意見や要望をお聞きし、ケアにつなげご利用者様にとっての良い環境づくりに反映させています。	2ヶ月に1回の家族会や面会時に要望、意見を聞く機会を作っています。内容によってはホームの運営に活かしたりケアプランに反映するようになっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議にて職員の意見・提案を聞いています。日常の中でも報告・連絡・相談を行い、ケアに反映しています。	管理者は職員がいつでも自由に意見や要望、提案を言える雰囲気を作っています。各種の会議でも要望や意見が言える機会があります。防災用のヘルメットの準備などの提案はホームの運営に反映した事例です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケアへの取り組みを把握し、また業務での悩みを聞き、向上心が持て楽しく仕事ができるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりのケアの実績の把握をして、その人にあった研修への参加を行っている。口腔ケアの講習・薬への知識の講習をホーム内で行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務体制が整わず地域の集會に出席できていません。事業本部の協力を得て、人員確保に努め、集會への出席および他の施設との交流ができるよう声をかけ、実施へと努力していきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1人ひとりに寄り添える時間をつくり、お話を聞いています。1対1のコミュニケーションがとれる入浴時には想いや要望を話して下さるようになりました。またご家族様の面会時には状態をお話しながら以前の様子を聞きケアにつなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から以前の様子を聞く中でご利用者様との関係で悩んでいた事を話して下さる関係ができてきています。今後ご利用者様だけではなく、ご家族様の想いを受け止めながらよい環境づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望が聞けるような環境をつくり、ご本人様の状態に添った支援を共に考えてニーズに答えられるよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寂しい言葉を聞いた時には傾聴しながら共感し、温かい言葉を持って寄り添っています。昔の遊びをレクに取り入れ、ご利用者様から教えていただける場を作っている。また興味をもっていること、好きな事を一緒に言い教えていただくような関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会と行事を同じ日に設定してホームに足を運んで頂ける様にしています。月1回は一言通信やわが家だよりにて近況を報告しています。支援をしていく中で電話で状態をお話して相談をしながらご利用者様のケアにつなげています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、馴染みの場所への買い物や定期的に他のご家族様に会いにいたり、散髪に行ったりされており、続けて行けるよう支援しています。	入居前からの習慣で馴染みの場所への買い物や墓参り、外泊、親族宅への面会など家族の協力で継続支援をしています。以前からの編み物を続けたり、電話での外部との交流など、継続支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間以外でも職員はご利用者様と談話しながら皆さんと会話が持てるように配慮しています。お手伝いでも職員と一緒にやって行うことで利用者同士の関係が良い状態になるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方で他事業所に移られることになった時には先に情報を提供し、転移後も対応に関して接し方を伝えています。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員からの声掛けを多く持つことで、ご利用者様の思いや要望、悩みを把握できるよう努めています。	日常生活の中で一人ひとりの思いや希望を把握するようにしています。入浴時の1対1の場を利用したり、意思表示の困難な人は家族の協力で把握し、反映できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状を報告していく中でご家族様から新しい情報を聞きケアに反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを行い、また生活記録にてその日の状態を把握することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの報告、相談を通してアセスメントを行いその人のより良い環境づくりの計画書の作成に取り組んでいます。	モニタリングは3ヶ月に1回実施し、計画の見直しは半年に1回行っています。カンファレンスには職員が全員参加で行っています。計画作成時には利用者や家族の要望、意見を反映するようにしています。外出の機会を増やすなどは要望事例の一つです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にその方のおっしゃった言葉や様子を記載し、また個人別の申し送り、全体の申し送りノートに情報やケアの見直しを記入して共有をはかり、チームケアに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の来館時には居室でおやつを召し上がって頂けるよう配慮している。地域の行事にご利用者様をお連れしてその方に安らぎを持って頂けるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方や地域包括の職員、保育園の方が出席して下さり、情報を交換したり、アドバイスを頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の訪問医師のほか、外来受診はご家族様の希望する病院へ受診されている。	定期健診を家族の協力で入居前のところで継続している利用者もいます。ホームの主治医の変更は家族の了解のもとにしています。内科や歯科は月2回の往診、眼科や皮膚科は必要な時に家族の協力のもとで対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護職員が訪問し、健康管理を行い、職員から日頃の状況を伝え、身体の変化に早く気づけるよう取り組んでいます。連絡記録を用い、職員との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様の情報を提供しています。退院に向けて病院との話をおこない、事業所内で対応可能な状態にもっていけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会にて重度化やターミナルケアについての説明を行っていき、ご家族様の意見を聞きながら安心した最期を迎えるよう取り組んでいきます。職員の間で話し合いを持ち、ご利用様が安心して最期を迎える事が出来る体制と整えていきます。	契約時に説明をしています。家族会で重度化した場合の話が出たのをきっかけにして、事業所内でも職員の研修を始めました。今後も勉強会は継続していく予定です。利用者、家族とも安心したターミナルケアを受けられる体制作りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政機関の協力や医療関係者からの協力を得て、職員全員が応急手当や蘇生の技術を学び対応できるように研修をおこなっていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には消防署の協力をえながら、地域の方にもお知らせをして実施している。ホームでは自主避難訓練としてできる限り月1回の訓練を行っている。	年2回、消防署の立会いのもと、町内会の人と一緒に避難訓練を行っています。その他、避難する事を利用者が体で覚えるために月1回、避難訓練を行っています。予告なしの非常時を意識した訓練としています。	水などは備蓄していますが、東北の震災の教訓もあり、さらなる備蓄内容の充実が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行う時、誘導時の声掛けにはご利用者さまのことを考えながら配慮した声かけを行っています。また本人の意思を優先できるような声掛けを行っています。	人生の先輩として利用者一人ひとりに合わせた声かけを行っています。食後の歯磨きなども、各居室の洗面台の所で行い、人前で口を開けるのを見られない様に配慮しています。居室のドアの小窓にカーテンを付けプライバシーの確保をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりに合わせた声掛けを行い、また表情や行動などからご本人様の思いをくみ取りその場にあった声掛けをしてお話しやすいよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなくその瞬間、その時を大切にその方に寄り添うケアを心がけています。個別対応ができるよう努め、一対一で散歩や近くの店に買い物に行くなどの取り組みをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたいとの希望があれば準備をしてご本人様の意向を大切にしています。また洋服が決まらず困っている方には一緒に考えてご本人様が納得したものを着ていただけるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は調理をして下さる方がいますが、出前をとったり、行事食としてメニューを考えたり、器を替え食を提供したり、食を楽しんで頂けるよう努めています。食事もしょにとり、お話をしながら楽しく食事ができるように心がけています。	管理栄養士が献立を作り、調理専門の職員が調理をしていますが、利用者に合わせて臨機応変に対応しています。お弁当にしたりミニ重箱につめたり、変化をもたせて食欲が出る様工夫をしています。利用者は配膳、片づけを率先してやっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の方とは常に連携をとり、ご利用者様に添った食事が提供できるようにしています。食事が困難と思われるときには、形態を変えたりなど工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回衛生士の方来られます。一人ひとりの口腔ケアを行い、職員と情報を交換を行いその方にあったケアに努めています。口腔ケアの講習を行い、全職員が口腔ケアの大切さを学びケアに取り組んでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用、その方の排泄を把握してできる限りトイレにて排泄が出来るように誘導しています。パット使用では1人ひとりの状態の変化を把握しカンファレンスを行い、その方にあったものを提供できるようにしています。	排泄表にて排泄パターンを把握し、さり気なくトイレに誘導して排泄を促しています。その際、利用者の尊厳を大切にシブライドを傷つけないような声かけ等、配慮をしています。その結果リハビリパンツから下着だけに改善した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表・水分表を使用して、排便の状態を把握し、薬の服用を調整したり水分量の確保に努めています。また温タオルで腹部を温めるなどの対応にも努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入浴ができるように、その方に添った声掛けにて誘導をしています。男性職員が苦手なご利用者様の対応は女性職員にて対応しています。	1階はリフト浴の設備があり、車いすの利用者にも安心して入浴ができます。拒否する利用者には好きな事など興味のもてる話をしながら、気分よく入浴出来る様に誘導しています。利用者によっては、夜に入浴することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中過ごされる中で、ご本人様の状態、要望にて休息が取れるように配慮しています。夜間の睡眠が心地よく取れるように、日中のレクリエーションを工夫して取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がいつでも確認できるように一人ひとりのファイルに綴じています。薬の形態もその方の状態にあわせて、医師や薬剤師、連携看護師の方と相談をしながら提供しています。薬の講習を行い、全職員に薬への理解を伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方が無理せずできるように配慮した声掛けをし、職員と一緒にしています。地域の盆踊りや音楽会などに足を運び楽しめる時間を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力にて買い物、外食に行かれています。今後、職員体勢に努めご利用者様の要望がその時に聞き入れ支援ができるように取り組んでいきます。	毎日、朝ご飯の前に、軽い散歩をして外の空気にふれています。近所のお店に定期的に行き買い物をしている利用者もいます。桜の季節には近所の公園に、おにぎりなどお弁当や和菓子、お茶などを持ってお花見に出かけ、楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所で行っています。ご本人様が不安を持っているときにはお預かりしている事をお伝えして安心して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話を掛けたいとの要望があればいつでも電話ができるように支援しています。また職員からも電話をかけることをすすめ、不安を取り除くけるよう配慮しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室は心地よく思えるような掲示物や写真などが置かれています。安全に過ごせるように椅子等の配置にも考慮して支援をおこなっています。	広々としたリビングの南向きの大きな窓からは、太陽の光が差し込み、とても明るく快適です。窓の外には、林や遠くの景色が眺められます。リビングの壁には、納涼祭、運動会、秋祭り等の写真が飾られ、ここでの暮らしが垣間見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファとテーブルを置きいつでも気軽に座って頂けるように設置してあります。また声掛けを行い、遠慮せずしようにできるように配慮してうます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が安らげる掲示をしたり、慣れ親しんだものを置いて居心地がよい居室づくりに取り組んでいます。	各居室のドアには、利用者の名前と共に写真が貼ってあり、誰の部屋か良く分かります。ドアの小窓には小さなカーテンがあり、プライバシーが守られています。鏡台やテレビ、仏壇など使い慣れた物を持ちこんで居心地よく暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように貼り紙をしたり、使用中の札を作るなどして不安や混乱をしないように配慮した支援をおこなっています。		

事業所名	グループホームみんなの家 川崎野川南台
ユニット名	2F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らすわが家として地域交流の機会をふやし、地域の中に根付くことを常に考え、行事を企画しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが開設して一年半が過ぎ、近隣の方とも顔なじみになり、言葉をかわしています。近くのスーパー散歩がてら買い物に行くことが増え、触れ合う機会がもてるようになっていきます。近隣の自治会のダンボール回収に協力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野川地区のすこやか運動に参加し、元気度チェックに協力をする。地域の会合への参加が思うようにできていない。地域の方が行事等にて来館されたとき、生活の様子などお話をしています。小学生の体験学習の受け入れをおこなっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告お行い意見やアドバイスをいただいている。地域包括センターの職員の方から防災へのアドバイスや地域の活動を教えていただき、ホームの活動にとりくんでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催のお知らせをおこなっています。子ども110番があることを教えていただき地域との連絡をとっていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月1回開催、またフロア会議等の時間を使い事例をあげながらカンファレンスを行い、拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されないよう注意を払い、防止に努めている	虐待につながる様な声掛けがないように声かけやコミュニケーションのとり方などを会議等の機会を使い伝えている。。また自分の生活も安らげるようになっていくことがご利用者様への良いケアにつながる事をつたえています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームで学ぶ機会がなかった。個々に研修に参加している。今後は会議にて伝えたり、講習を受ける機会をつくり職員みんなが制度を理解し支援できるようしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い同意が得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のお知らせをおこなって、会に参加していただける様に努めています。会にてご家族様の意見や要望をお聞きし、ケアにつなげご利用者様にとっての良い環境づくりに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議にて職員の意見・提案を聞いています。日常の中でも報告・連絡・相談を行い、ケアに反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケアへの取り組みを把握し、また業務での悩みを聞き、向上心が持て楽しく仕事ができるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりのケアの実績の把握をして、その人にあった研修への参加を行っている。口腔ケアの講習・薬への知識の講習をホーム内で行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務体制が整わず地域の集會に出席できていません。事業本部の協力を得て、人員確保に努め、集會への出席および他の施設との交流ができるよう声をかけ、実施へと努力していきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1人ひとりに寄り添える時間をつくり、お話を聞いています。1対1のコミュニケーションがとれる入浴時には想いや要望を話して下さるようになりました。またご家族様の面会時には状態をお話しながら以前の様子を聞きケアにつなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から以前の様子聞く中でご利用者様との関係で悩んでいた事を話して下さる関係ができてきています。今後ご利用者様だけではなく、ご家族様の想いを受け止めながらよい環境づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望が聞けるような環境をつくり、ご本人様の状態に添った支援を共に考えてニーズに答えられるよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寂しい言葉を聞いた時には傾聴しながら共感し、温かい言葉を持って寄り添っています。昔の遊びをレクに取り入れ、ご利用者様から教えていただける場を作っている。また興味をもっていること、好きな事を一緒に行い教えていただくような関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会と行事を同じ日に設定してホームに足を運んで頂ける様にしています。月1回は一言通信やわが家だよりにて近況を報告しています。支援をしていく中で電話で状態をお話して相談をしながらご利用者様のケアにつなげています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、馴染みの場所への買い物や定期的に他のご家族様に会いにいたりしており続けて行けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間以外でも職員はご利用者様と談話しながら皆さんと会話が持てるように配慮しています。お手伝いでも職員と一緒にやって行うことで利用者同士の関係が良い状態になるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方で他事業所に移られることになった時には先に情報を提供し、転移後も対応に関して接し方を伝えています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員からの声掛けを多く持つことで、ご利用者様の思いや要望、悩みを把握できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状を報告していく中でご家族様から新しい情報を聞きケアに反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを行い、また生活記録にてその日の状態を把握することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの報告、相談を通してアセスメントを行いその人のより良い環境づくりの計画書の作成に取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にその方のおっしゃった言葉や様子を記載し、また個人別の申し送り、全体の申し送りノートに情報やケアの見直しを記入して共有をはかり、チームケアに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の来館時には居室でおやつを召し上がって頂けるよう配慮している。地域の行事にご利用者様をお連れしてその方に安らぎを持って頂けるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方や地域包括の職員、保育園の方が出席して下さり、情報を交換したり、アドバイスを頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の訪問医師のほか、外来受診はご家族様の希望する病院へ受診されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護職員が訪問し、健康管理を行い、職員から日頃の状況を伝え、身体の変化に早く気づけるよう取り組んでいます。連絡記録を用い、職員との連携をはかっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様の情報を提供しています。退院に向けて病院との話をおこない、事業所内で対応可能な状態にもっていけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会にて重度化やターミナルケアについての説明を行っていき、ご家族様の意見を聞きながら安心した最期を迎えるよう取り組んでいきます。職員の間で話し合いを持ち、ご利用様が安心して最期を迎える事が出来る体制と整えていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政機関の協力や医療関係者からの協力を得て、職員全員が応急手当や蘇生の技術を学び対応できるように研修をおこなっていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には消防署の協力をえながら、地域の方にもお知らせをして実施している。ホームでは自主避難訓練としてできる限り月1回の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行う時、誘導時の声掛けにはご利用者さまのことを考えながら配慮した声かけを行っています。また本人の意思を優先できるような声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりに合わせた声掛けを行い、また表情や行動などからご本人様の思いをくみ取りその場にあった声掛けをしてお話ししやすいよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなくその瞬間、その時を大切にしておの方に寄り添うケアを心がけています。個別対応ができるよう努め、一対一で散歩や近くの店に買い物に行くなどの取り組みをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のこだわり・意向を大切にしています。。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は調理をして下さる方がいますが、出前をとったり、行事食としてメニューを考えたり、器を替え食を提供したり、食を楽しんで頂けるよう努めています。食事もしょにとり、お話をしながら楽しく食事できるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の方とは常に連携をとり、ご利用者様に添った食事が提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回衛生士の方来られます。一人ひとりの口腔ケアを行い、職員と情報を交換を行いその方にあったケアに努めています。口腔ケアの講習を行い、全職員が口腔ケアの大切さを学びケアに取り組んでいます。食前の嚥下体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用、その方の排泄を把握してできる限りトイレにて排泄が出来るように誘導しています。パット使用では1人ひとりの状態の変化を把握しカンファレンスを行い、その方にあったものを提供できるようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表・水分表を使用して、排便の状態を把握し、薬の服用を調整したり水分量の確保に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入浴ができるように、その方に添った声掛けにて誘導をしています。入浴したい時間に合わせることは難しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が心地よく取れるように、日中のレクリエーションを工夫して取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がいつでも確認できるように一人ひとりのファイルに綴じています。薬の形態もその方の状態にあわせて、医師や薬剤師、連携看護師の方と相談をしながら提供しています。薬の講習を行い、全職員に薬への理解を伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方が無理せずできるように配慮した声掛けをし、職員と一緒にしています。地域の盆踊りや音楽会などに足を運び楽しめる時間を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力にて買い物、外食に行かれています。十分ではありません。今後、職員体勢に努めご利用者様の要望がその時に聞き入れ支援ができるように取り組んでいきます。週1回は早朝散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事業所で行っています。ご本人様が不安を持っているときにはお預かりしている事をお伝えして安心して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話を掛けたいとの要望があればいつでも電話ができるように支援しています。また職員からも電話をかけることをすすめ、不安を取り除くけるよう配慮しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室は心地よく思えるような掲示物や写真などが置かれています。フロアの壁面は利用者様と共に考え、季節の飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファとテーブルを置きいつでも気軽に座って頂けるように設置してあります。思い出の品物を置いて頂き、本人の居心地のよい空間を作る努力をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が安らげる掲示をしたり、慣れ親しんだものを置いて居心地がよい居室づくりに取り組んでいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが動きやすいように手すりを設置。物品の置き場所にも十分に考慮しています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームみんなの家・川崎野川南台

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 1 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難方法が確立されていない。 全職員が防災への知識及び避難誘導を身につけなければいけない。	自主避難訓練を重ね、当ホーム独自の避難方法をつくりだす。	防災訓練を月1回実施。	12ヶ月
2	2 3 29	地域交流の場がまだ少ない。 防災時の協力へつながる。 ご利用者様にも楽しみが持て生活にもはりが持てる。	小さな交流の積み重ね、地域住民との馴染みの関係をつくる。	近隣の方がホームに来館できるような行事を企画する。(バザー、演奏会など) 地域の活動・行事への参加。 (毎週行われている公園体操など)	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。